

地域アセスメントを進めるための視点
～地域福祉推進の手掛かりとして～

平成 31 年 3 月

社会福祉法人島根県社会福祉協議会
地域福祉推進委員会 モデル地域アセスメントシート策定検討会

【目次】

- 01. はじめに P. 1
- 02. 地域アセスメントの必要性 P. 2
- 03. モデル地域アセスメントシート P. 3
- 04. 地域アセスメントの方法について P. 8
- 05. 地域アセスメントの取り組み P. 10
- 06. 地域アセスメントの活用・展開方法について . . . P. 13
- 07. 地域アセスメントの改善・注意点について P. 34
- 08. おわりに P. 35

01 はじめに

本検討会は、しまね版第2次アクションプランの目標を達成するために、地域福祉推進委員会の専門部会として位置づけられました。

しまね版第2次アクションプランにおけるオールしまね社協としての到達目標を「的確な地域アセスメント（地域診断）を行い、関係者と共有しています。」とし、到達目標をクリアするための重点実践項目として、「全ての小地域単位でアセスメントシートを作成します。」としました。

これらを達成するために、市町村社協の地域アセスメント実践者を委員として、島根大学人間科学部社会福祉コース准教授加川充浩座長の元、検討会を立ち上げました。

検討会においては、市町村社協が今後地域アセスメントを行っていく必要性やその活用方法について議論を重ねながら、本書を作成しました。

既に地域アセスメントを行っている市町村社協は新たな視点で取り組んでいただくこと、地域アセスメントを行っていない市町村社協は、新たに地域アセスメントしていくきっかけにしていくために策定されたものです。

そもそもなぜ地域アセスメントをするのか、どの様に活用するのかを議論をしながら、大切になるポイントを本書にまとめました。

02 地域アセスメントの必要性

地域アセスメントについて「狭い地域だから、アセスメントしなくてもよい。地域の課題は分かっている。」という考え方もあるかと思います。

社協職員は、普段から地域との関わりにより、様々な情報を収集しています。そうした個々のワーカーが持っている情報を元に地域をどのように支援するか組み立てて、実践しているといったケースはあるかと思います。

一方、その実践の裏付けとなる地域アセスメントが意識的に行われてきたでしょうか。

近年、個人の援助を行う際には、アセスメントからプランニングまでの一連の流れの中で、アセスメントを行うことは一般化してきています。しかし、地域福祉を進める際に地域ニーズの把握・分析・見立てに基づいて地域への支援目標・計画作成など、コミュニティワーク等の流れの中で地域アセスメントを行うということが意識されないまま、実践をしていることが多いのではないのでしょうか。

個々のワーカーの思い・考え方のみで進めるのではなく、俯瞰的に地域を把握しながら、計画的に地域を支援していくことも必要ではないのでしょうか。

特に近年では、生活支援コーディネーターの配置や、地域共生社会を進めるための包括化推進員など、施策が地域福祉に近づいている中、地域福祉の実践について、根拠を持って説明していくことも求められています。

そもそも地域福祉を進めていく上で、地域と一緒に地域アセスメントを行うことは必要ではないのでしょうか。その際に人口統計、地区の特性や資源などを把握したものを地域の方へ示すことで地域住民の活動へのきっかけになります。

繰り返しになりますが、本当に地域の方々が望まれていることは何なのか、地域の特性、地域の強みや弱みなどを把握し、今後の課題解決に向けて地域アセスメントは欠かせません。

03 モデル地域アセスメントシート

今回、策定したモデル地域アセスメントシートは、視点として大事であると思われる項目を記載しています。一方、このシートはあくまでモデルです。

それぞれの市町村で、どのようなエリアで、どのような項目をアセスメントしていくかなどについて確認しながら、それぞれの地域に合わせ、地域アセスメントシートを変更・修正していくことが求められます。

決して、このシートをそのまま使い、変更せず、シートを埋めることが目的にならないようにしてください。何のために地域アセスメントするか、どう共有するのかによって項目が変わってきます。また、項目に入っていない事項やニーズを把握する視点が欠如してしまう恐れがあります。

さらに、このモデル地域アセスメントシートから地域への見立てや支援計画など、コミュニティワークやコミュニティソーシャルワークなどの展開を視野に入れ、導入する必要があります。

モデル地域アセスメントシート

1 地域の状況

圏域の種類 自治会・小学校区・中学校区・公民館区・その他（ ）

(1)基礎データ

2019年4月1日現在

項目	A 圏域	全市数	入手先	更新日
面積	㎡	㎡	市HP	H30.3.31
人口	人	人	総務課	H30.3.31
年少人口・0~14歳（年少人口率）	人（％）	人（100％）		
生産年齢人口・15~64歳（生産年齢人口率）	人（％）	人（100％）		
高齢人口65歳以上（高齢化率）	人（％）	人（100％）		
自治会数	（加入率 　％）	（加入率 　％）	〃	H30.3.31
世帯数	世帯	世帯		H30.3.31
民生児童委員数	人 〇〇地区担当： 名前：	人	民児事務局	H30.5.1
主任児童委員数	人 〇〇地区担当： 名前：	人	〃	〃
福祉委員（福祉推進委員）	人 〇〇地区担当： 名前：	人	社協（地域福祉課）	H30.3.31
単位老人クラブ数	単位	単位	老人クラブ事	H30.3.31
生活保護世帯数	世帯	世帯	福祉推進課	H30.3.31
要介護認定者数	人	人	介護課 （介護課HP）	H30.4.1
要支援1・2	人	人		
要介護1	人	人		
要介護2	人	人		
要介護3	人	人		
要介護4	人	人		
要介護5	人	人		
認知症高齢者数	人	人		
配食サービス登録者数	人	人	社協	H30.3.31
障害者手帳所持者数			障がい福祉課	
身体障害者手帳	人	人		
療育手帳	人	人		
精神保健福祉手帳	人	人		
高齢者世帯数等	世帯	世帯	介護保険課	
独居世帯数	世帯 （男 世帯） （女 世帯）	世帯 （男 世帯） （女 世帯）	〃	

	高齢者二人以上世帯数	世帯	世帯	//	
	昼間一人暮らし高齢者数	人	人	地区	
ひとり親世帯数 (児童扶養手当受給者)		世帯 (母子世帯) (父子世帯)	世帯 (母子世帯) (父子世帯)		
引きこもりの方		人		社協	H30.3.31
小学校数		校	校	教育委員会	H30.4.1
児童数		人	人		
中学校数		校	校		
生徒数		人	人		
高等学校数		校	校		
生徒数		人	人		
特別支援学校		校	校	教育委員会	H30.4.1
不登校児童・生徒数		人	人		
保育園待機者数		人	人	子育て支援課	H30.3.31

(2) 社会資源リスト

項目	名称・内容・担当者等	
社会福祉施設等	高齢者福祉施設	〇〇ディサービス：ボランティア受入担当 〇〇相談員 〇〇グループホーム
	障がい児・者福祉施設	〇〇障害者支援施設
	保育園・幼稚園等	〇〇公立保育園、〇〇私立保育園、〇〇幼稚園、〇〇児童館
	児童福祉施設	〇〇児童館
	その他	
活動拠点	共同利用施設・地域利用施設等	〇〇公民館：〇〇館長
	集会所等	〇〇集会所
	学校関係	
	その他（集いの場等）	〇〇さん宅（月1回お茶飲み会）：担当 〇〇民生児童委員
公園・運動施設		〇〇運動公園、〇〇体育館
医療機関		〇〇地区診療所（火・金 往診可能）
生活関連機関等	よく利用されている 商店等	J A直売所、コンビニ〇〇店、〇〇商店（週2回〇〇地区へ 移動販売）
交通		〇〇バス（1日5本運行）、〇〇タクシー会社
教育施設		〇〇小学校、〇〇中学校：福祉教育担当 〇先生 スクールソーシャルワーカー〇〇氏
農業・漁業		漁業組合〇〇支所、農業組合〇〇支店
その他活用可能な社会資源		〇〇郵便局

(3) インフォーマルな資源・活動

項目		名称、所在地・活動頻度、活動内容、キーパーソン、強み、課題等
団体・グループ	福祉活動団体	A地区社協(所在地：〇〇会長の自宅)会長：〇〇氏 事務局〇〇氏 (任期H31.3.31迄) 月1回〇〇公民館で定例会実施 地区社協サロン会を2カ月に1回公民館で実施 強み：役員間で目指すべき地域像を定期的に共有している。 課題：地区社協活動の意味が理解されず、活動を負担と感じる方が多い。
		B地区いきいきサロン 月2回開催、多世代でサロン実施している。A宅で実施している。 キーパーソン：〇〇代表
	ボランティアグループ	配食ボランティアグループE 代表：〇〇氏 月2回開催、1回300円で〇〇地区の配食を行っている。
	当事者組織	障がい児・者家族会A 代表：〇〇氏 年1回活動報告会実施している
	NPO・企業	A企業 担当：〇〇氏 年2回地域の清掃活動実施⇒ボランティアセンター登録5名(子ども食堂スタッフ、学習支援などのボランティア活動を実施)
		NPO法人A キーパーソン：〇〇理事長 子ども関係居場所作りをしている。
その他の団体	A消防団、B営農法人、C自治会(会長：〇〇氏、常会年10回、しめ縄作り年1回実施)青年部D	
個人	福祉活動等	〇〇さん、元大工で、力仕事で他地域住民の困りごとに対応されている。 〇〇さん、買い物支援が必要な人に、一緒に車で出かけている。
	その他	

(4) 将来の人口動態等(しまねの郷づくり応援サイトより引用)

項目	2018年	2023年	2028年	2033年	2038年
人口					
高齢化率(65歳～)					
後期高齢者比率(75歳～)					
生産年齢人口率(15歳～64歳)					
若年年齢層率(～14歳)					

(5) 地域の特徴(歴史・気候条件・地理的条件・産業構造・住民意識等)について

<ul style="list-style-type: none"> ・森林が多く、〇〇川に沿った地域で、明治時代から〇〇温泉が有名で、地域外から人が来る。近年、少子高齢化が進み人口減少となっている。 ・温泉がある地区には商業施設があるが、離れた地区では商業施設が乏しく、買い物は車が必須であり、住民の多くは自家用車で移動をしている。 ・自治会が〇〇か所あり、ボランティア活動や支え合いの意識が高い住民が多い。一方、U・Iターン者も多く、U・Iターン者は、まちづくりへの意識が高い。 ・持ち家率が高い一方、地区内にアパートも建設されてきている。 ・※その他(文化・伝統・風習・習慣・自然環境など)

2 アセスメントからの気づき・ワーカーの認識

(1) 地域の強みや良いところについて

- ・子ども会の活動が活発に行われており、世代間交流が盛んである。
- ・〇〇商店で、週2回移動販売を行っている。
- ・大工さんが、地区の家屋に関する困りごとをボランティアで対応している。
- ・地域でグランドゴルフや野菜作りなど活動をしている人が多いため、元気な人が多い。
- ・観光スポット（温泉）があり、地域外からの人で賑わう。また温泉施設が地域住民の集いの場になっている。

(2) 地域の課題や生活福祉課題（地域の困りごと・心配事）

- ・支え合いの意識が高い一方、サロン活動などの小地域福祉活動が停滞している。活動の目的が薄れている。
- ・高齢の男性があまり集いに出ない
- ・独居高齢者が多い
- ・〇〇年〇月には、〇〇地区で孤独死も発生している。
- ・坂が多く移動が不便。自家用車がないと移動が困難な地域が多い。デマンドバスの内容を知らない人が多い。
- ・平成〇〇年から空き家の数が〇〇件となっており、地域内にアパートも建ってきている。そのため自治会加入率も低く、住民同士が顔を合わせる機会が少ない地域がある。

3 アセスメントからの気づき・ワーカーの認識

(1) 今後の展開、望まれる支援・方策について

- ・サロン活動団体や小地域福祉活動実践者に向けて、何故活動をしていくのか目指すべき地域像や価値観を共有する場を設定する。
- ・子ども会活動の把握と地域住民への周知し、世代間交流を促進する。
- ・デマンドバスの利用撮影取材し、地区へ映像にて周知を図る。デマンドバスの利用の仕方などケーブルテレビ等の映像媒体を使って広く周知をしていく。
- ・男性が集まれる場づくり（温泉ツアー・アルコール会・将棋の会など）を進める。

特記事項

- ・
- ・
- ・

※記載内容は、それぞれの項目の記入例として記載をしています。ある地域をモデルとして記載されたものではありません。

※本シートを用いて、各市町村社協で項目・記入内容を変更してください。

※社協黒子読本（監修 加山弾 編著 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会とちぎ社協コミュニティワーク研究会 2009年3月31日第1刷発行）より多数項目を引用

※本冊子は、本会ホームページ（<https://www.fukushi-shimane.or.jp/>）よりダウンロードできます。

04 地域アセスメントの方法について

地域アセスメントは地域と共に、アセスメントをすることが重要になります。

地域住民以外にも、関係者・各種団体・専門職とどのように地域アセスメントを実施していくかを検討し、社協だけではなく、地域一丸となって取組みを進めましょう。

その方法は、いくつかの方法で実施していくことが考えられます。例えば下記の方法が考えられます。それぞれの地域に合わせて実施してください。

(1) 既存統計データ等の収集（人口統計、介護保険のデータ等）と既存資源のリストアップ

既存統計データ（人口・世帯数・要介護認定率など）の情報については、行政ホームページから確認できます。その他、行政・当事者団体等で実施している調査・アンケート結果もあります。そうした情報を収集しておきましょう。

その他に、地域には様々な資源があります。そうした地域にある既存の資源をリストアップしていくことも重要です。リストアップしていくときに一度担当で記入をし、地域住民と共に既存資源を確認・共有することも大切です。

(2) 地域住民・活動当事者・各団体・専門職等との共有の場（ワークショップ・座談会等）

ワークショップ・座談会などの場を設定し、地域アセスメントする方法があります。例えば「今後目指したい地域とは」といったテーマで地域住民・団体・関係者とワークショップを開催することで、地域アセスメントした基礎的な統計データ（人口・世帯数・社会資源一覧）などの情報とすり合わせるができます。

さらに、社会資源一覧を地図に落としていくことで、利用のしやすい・にくい地域があることへの気づきにつながります。また、新たな資源の発見や地域内の細かな情報を地域住民同士で共有するきっかけになります。

その際、地域の課題・今後の展開等については、必ず地域住民と共有・確認をしましょう。確認していく中で、「地域の課題が分からない。」といわれれば、「一緒に考えてみませんか」という提案をしていくチャンスになります。地域の課題や今後の目指す地域像、社会資源の開発・改善点などが共有されないまま、地域づくりを進めることがないようにしましょう。

(3) 地域住民との会話・訪問・インタビュー

ある社協では、年2回独居高齢者のお宅を訪問・状況確認し、個別のシートに記載しています。そこから得た情報を元に、地域で引きこもり当事者の居場所が必要ということが分かり、地域の居場所作りにつながった事例もあります。

その他、地域住民との会話・インタビューにより、地域のキーパーソンやご近所同士のつながりを確認することや、より細かい個別課題の把握することができます。

(4) アンケート調査

アンケート調査については、地域全体を把握するために実施し、地域の課題を地域住民と共有していく中で、具体的に地域課題を把握すること、さらなる細かいニーズを把握するためにアンケート調査などがあります。

その他、事業所・企業へのアンケート調査から生活支援サービスを把握し、それを見える化を図り、地域と共有することといった方法があります。

1～4の方法は、あくまで例です。これらの手法を用いながら地域アセスメントする中で、それぞれの地域に併せてシートを作成している社協もあります。次ページから浜田市・西ノ島、それぞれの社協の地域アセスメントの方法・取り組みを一部ご紹介します。

その他では、個別訪問によるアウトリーチ、自治会圏域で支え合いマップを使った地域アセスメントの実施、地域住民・専門職が集う会議の中から必要な情報収集する方法、様々な方法で地域アセスメントが行われています。

地域住民主体の地域づくり、地域住民に福祉活動へ関心を持ってもらうためにも、専門職だけで地域アセスメントを行うのではなく、地域と共にアセスメントして下さい。

その中で、それぞれの地域の状況に合わせ、どのように地域アセスメントをするか検討しながら、必要に応じ繰り返して実施していくことが重要です。

05 地域アセスメントの取り組み

(1) 浜田市社会福祉協議会の取り組み

地域の方々とまちあるき調査活動を行い、そこで得た情報などを元に集いの場・趣味の会などを地図に落とし込み、見える化を図っています。

(旭地区ささえあい協議体 暮らしの支え合い・集いの場より一部抜粋)

集いの場 今市地区

《サロン》

	団体名	場所	頻度
①	今市サロンにこにこ会	今市公民館等	月1回
②	丸原お楽しみ会	丸原センター	月1回
③	坂本サロン「なごみ会」	坂本構造改善センター	月1回

《百歳体操》

	団体名	場所	頻度
◇	つくも会	丸原センター	月2回
◇	スマイル	新町集会所	週1回
◇	なごみ会	坂本構造改善センター	週1回
◇	すみれ会	加古屋集会所	週1回

《趣味会》

団体名	場所	頻度
大正琴	丸原センター	月1回
生け花	★今市公民館	月1回
子ども囲碁	★今市公民館	週1回
健康運動教室	★今市公民館	月2回

《運動・スポーツ》

	団体名	場所	頻度
①	ゴム・ボール体操	丸原センター	月2回
②	グラウンドゴルフ	旭運動公園	週2回



(2) 西ノ島町社会福祉協議会の取り組み

全 15 地区で座談会を行っています。座談会では、地域福祉活動計画策定時に行ったニーズ調査について、改めて聞き取りを行い現在の状況を確認しています。また、高齢者の生活ニーズ一覧に沿って、現在の状況と今後身体が不自由になった時に誰にどうしてもらいたいか聞き取り、集約し、地区ごとにまとめています。さらに、15 地区各地区で商業施設・介護事業所・病院・包括等へ聞き取り調査を実施しています。

●地域福祉活動計画策定に伴うニーズ調査より一部抜粋

地区名	人口 (人)	高齢 化率 (%)	65 歳 未満 (人)	15 歳 未満 (人)	世帯数 (世帯)	地域特性		ボランティア・市民 活動団体・自助グル ープ・等の活動並び に企業、NPO,など の活動	地域課題	地区の活動状況(地 区交流及び、役場、 社協の活動状況な ど)
						(〇〇年〇月〇日現在)	ハード面			
						店舗がなく、買い物や受診等は〇〇地区まで出かけてはならない。〇行のバスは1日に3本(土日・祝日運休) 買い物支援バスは週2本(月:木)	住民は、協力的である。地域の高齢化が進み活動できる人材が少ないと思っていたが、若い世代も多く特に困っていることはない。	消防団(〇〇・〇〇)	住民が集まる機会が少なく、住民が集まるのは年1回の総会のみ	体操教室(社協)月1回、健康相談(役場)2ヶ月:1回
										総会、消火訓練・AED講習・消火栓の点検
										2年に1回神社の掃除、盆踊り(初盆家庭の寄付)

●平成 26 年度地域福祉活動計画策定に伴うニーズ調査より（一部抜粋）

テーマ	計画策定時	現在の状況
買い物、外出	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物や受診は〇〇地区へ出かける。 ・〇〇行きのバスは1日3本(土日、祝日なし) ・買い物支援バスは週2回(月、木) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期バスについて(便は変わらない)時間帯は良いが、冬はレインボーに合わせているのか朝便が早い。 バス停まで行くのが大変。土日祝もバスがあれば良いが、無料で良くしてくれる。お金を払ってもいいぐらい助かっている。 ・買い物について買った物は配達してもらおう。〇〇スーパーが配達してくれる。
地区内での活動・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・安否確認は近隣でできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りは近所が近いので近隣(組)でできていると思う。カーテンが開いているかなど皆が気にかけている。 ・〇〇クラブのときに情報交換をしている。何かあれば行政に連絡している。(社協や行政が動いてくれるので、困ることは少ない) ・畑の行き帰りに会えば話をする。
地縁組織・ボラグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇クラブ(月1回) ・消防団 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇クラブは毎月1日に行っている。いつも来る人が来ないと連絡する。 ・消防団は人手不足。若い人がいない。 ・組は5組ある
役場、社協などの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・健康サロン(社協)月1回、サロン(地区)月1回 ・健康相談(役場)2カ月に1回 ・総会、盆踊り、祭り(4年に1回)、避難訓練、消火訓練、AED講習 	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りは、4年に1度行っているが難しくなっている。(今年が4年目だがやらない予定) ・消火訓練、避難訓練、AEDの講習、最近は行っていない。
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブの活動が活発になってきた反面、サロン等の固定化が課題である。 ・地理的に長いため住民同士が顔を合わせる機会が少ない。 ・地域の活性化に意識が低い。50～60代の協力が必要だが、個の世代をどう取り込んでいくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者クラブ、健康サロン・・・毎回8～10名が参加するが、出られない方が増えてきた。もう少し若い人に参加してほしいが、話が合わないのでは。50～60代の方は仕事をしている。 ・区の行事が少なく会う機会が少ない。祭りや盆前の掃除はある。地区の掃除は若い人も参加する。 ・役員を決めるのが困る。住宅は別の扱いになっている。 ・同じ地区内でも年に1回会うか会わないかの人がいる。車なので道で会うことはない。

06 地域アセスメントの活用・展開方法 について

今回、モデル地域アセスメントシート策定検討会の中で、最も議論をしたのが、地域アセスメントの活用・展開です。

地域アセスメントを行い、シートに情報を記載するだけでなく、地域アセスメントをどう活用・展開していくかが重要になります。地域アセスメントは、コミュニティワーク等の流れの一部であり、アセスメントはゴールではありません。

5つの活用・展開例をご紹介します。事例のような活用・展開方法について丁寧に協議しながら、取り組んでいくことが重要です。

イメージ図にあるように、各社協で作成しているシート等も今後の参考にしていただければ幸いです。

活用・展開例①

「地域のお宝さがしワークショップ」を用いた地域アセスメント

松江市社会福祉協議会

地域アセスメントを行ったエリア

全市（29 公民館区）

地域アセスメント実践のきっかけについて

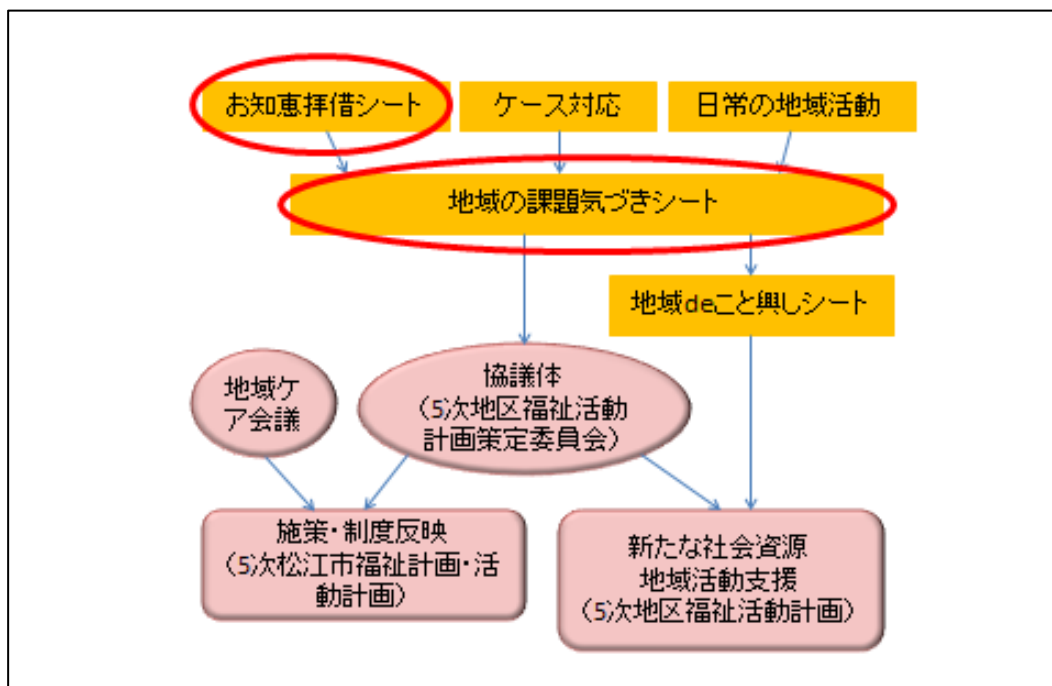
松江市社協では、これまでも各地域でワークショップなどを通じて地域アセスメントを実施してきましたが、平成 27 年度から、生活支援コーディネーターを受託したことをきっかけに市内 29 地区を対象に地域の「お宝さがしワークショップ」を進めてきました。

また、平成 29 年度からは相談支援包括化推進員も受託し、社協本来の地域に根差した福祉活動と専門相談支援機関を通じて入ってくるニーズを結び、オール松江市社協で CSW を推進しようとしているところです。

地域アセスメントの活用方法・展開について

地域のお宝さがしワークショップには、地域の福祉推進員さんや民生児童委員さん、自治会長さんなどにお出かけいただき「高齢者の暮らし困ったこんな時お知恵拝借シート」を用いたワークショップを開催しました。

私たちとしては、今の地域にある様々な活動やつながりの把握をすることはもちろんですが、こうした取り組みから地域の様子が見える化し、それらをもとに地域の課題を探っていければという狙いがありました。



生活支援コーディネーターを受託して、一体何から始めればよいのかわかりませんでした。しかし、地域のことは地域の人が一番良く分かっています。分からないことは聞けばいいということで作ったのが、お知恵拝借シートです。

このシートでは、今ある地域の社会資源を知ることだけではなく、将来の希望を聞いています。そうすると、実に様々なことが出てきました。

私たち社協はずっと地域とともに活動してきましたが、あらためてこのような形で見える形にしたことはなかったと思います。

今の地域を、地域の皆さんがこうしていきたいという思いが、とても新鮮に聞こえました。


●「高齢者の暮らし困ったこんな時お知恵拝借シート」

地域包括の予防プランから生活の困りごとを抽出

高齢者の暮らし 困ったこんな時 お知恵拝借シート__編
() 地区 _____ 名 _____

困りごと	(現代) こんなことがありますよ！	(15年後のあなたなら) 誰に、どうしてもらえると 良いですか？
買物が大変	例：〇〇商店の配達	例：□□に朝市を開いてもらう。
掃除がしにくい	①地域の資源把握 ↓	①今後目指すべき 地域の姿
料理ができない・しにくい	②地域の資源共有	↓ ②自分たちでできる ことのイメージ化
ゴミの分別・ゴミだしが大変	空欄の時は 地域としての課題 に気付くヒントかも？	↓ ③自分たちでは できないことは行政 へ伝える
外出できない・しにくい		
困ったときの相談相手がいない		
趣味・生きがいがない		
家電の修理・電池・電球交換		
さみしい・不安だ		
1人でお風呂に入りにくい		

- ・その地域の暮らしのプロは、そこに住む地域の人たち！
- ・地域の人たちに地域の生活の知恵を教えてください！
- ・地域の人たちの暮らしぶりを知りたい！
- ・地域の人たちが考える、解決方法を知りたい！
- ・地域の人たちが本当に望む解決方法を知りたい！



時間はおおむね40分間です。

地域アセスメントによる成果や課題について

この取り組みを通してご覧のようなことが見えてきました。

【ワークショップを通して見えてきたこと】

- ・要支援高齢者の暮らしぶりが、住民には意外と見えていない。
- ・地域には様々な社会資源があるが、その情報が共有されていない。
- ・普段からのご近所づきあいが大事。
- ・女性は買ってきてもらうより、ホントは買いに行きたい。男性は簡単に済ませたい。
- ・インターネットや掃除ロボットなど、新しいモノも気になる。
- ・気軽に集まれる場が欲しいが、適当な場所がない。
- ・買物や趣味生きがいニーズは、移動支援ニーズでもある。
- ・入浴、掃除には、専門職の支援を望む傾向が強い。
- ・生活支援の基本単位は、町内会自治会が望まれる。

また、こうした取り組みをきっかけに、地域にも動きが出てきました。自分たちで役立つ情報を調べ、共有しようという動きです。このような便利帳を作り、民生児童委員、福祉推進員などに配布し、見守り活動に活用されたり、中には全戸配布する地区もありました。

知っていると便利! 相談窓口

生活について 一時をしぐく食べ物に出る、緊急で住まいの確保が難しいなど
☎ 60-7575 松江市くらし相談支援センター

契約・トラブル 近隣問題、不当解雇、不動産、金銭トラブル、商品トラブル、契約解除、多量債務、訪問販売、アパートの契約など
☎ 55-5148 松江市役所消費・生活相談室

健康について 健康相談、健診、がん検診、予防接種、妊婦、子育て、虐待や自死、出前健康教室などの相談

平成29年3月 作成 大庭地区社会福祉協議会

大庭版くらしの便利帳

『みんなで支え合う健康と福祉のまちづくり!』

大庭地区社会福祉協議会でも他地区に刊行され「くらしの便利帳」を作ってみました。記載内容は、松江市社会福祉協議会で公開されている「高齢者お役立ち情報」を抜粋したものです。皆様のくらしの一助になれば幸いです。ぜひご利用ください!」

在宅サービス 訪問サービス 移送サービス をしている事業所

<p>十路居酒屋 ☎ 21-2153 (大庭町42-3) 営業日: 年中無休 8:30~20:00 酒類・調味料・菓子等の配達。 クリーニングの取寄せもあり。</p>	<p>モルツェル(株) キッチン健康生活 ☎ 20-2400 (黒田町454-3) 受付: 8:30~12:30 13:30~17:30 語音食・給食費・腎臓食・特別食のお弁当やおかずのみの注文も可能。 食料品や洗濯などの日用品の買い物代行もしている。</p>	<p>セルフステーション ARAKI (あらかき) ☎ 28-3050 (山代町935-78) 営業日: 7:00~20:00 正月をのぞき無休 灯油の宅配。 配達地域、価格等は直接お問い合わせください。</p>
<p>あいか米穀店 ☎ 0120-60-2022 (大庭町392-25) 営業日: 月~土曜日 9:30~18:00 日・祝は休業 お米の宅配。冬は灯油の配達。 量だいで家の中まで入って指定の場所までお届け。</p>	<p>パナックみかみ ☎ 23-8620 (古志町6-19-23) 営業日: 月~土曜日 9:00~19:30 定休日: 毎週日曜日 電話の交換や配達・訪問など、家電のお取り扱いなどは何でもご相談ください。</p>	<p>介護タクシーふれんど ☎ 25-3011 (南原町2-6) 【対象者】車椅子利用以外でもツカガ治療中、認知症、杖・歩行器使用時、搭乗2名まで、【目的】通院、入浴院、福祉施設等の送迎、買い物、食事、送迎解送等、多目的に利用可能。 【金額】送迎料金:200円 初乗り運賃:1,500円まで510円 加算運賃・待機料金・乗り上げ等の乗降介助・病院内等での移動介助などの料金については、直接お問い合わせください。 【その他】必ずご予約(事前)のお電話をください。ご利用の日時、場所、行先をお伝えください。 ※介護保険対応 なし</p>
<p>(有)原田米穀 ☎ 21-4842 (賀賀町553) お届け時間: 9:00~18:00 定休日: 毎週日曜日 米、灯油、調味料、トイレットペーパー、洗剤、電子レンジの配達。 お米、灯油お取りまでの注文引あり。</p>	<p>相光電気商会 ☎ 21-4202 (中町828) 営業日: 月~土曜日 9:00~18:30 電気交換、その他家電商品の出張修理、電気工事等、住宅用パナソニック、手すり取り付け、各種リフォーム、防犯対策、防犯対策のご提案など。 ※出張費、配達の日時等、ご相談ください。</p>	<p>松江市社会福祉協議会 ゆうあいヘルプサービス ☎ 28-1234 (千鳥町70) 営業日: 月~日曜日 8:00~19:00 (12月31日~1月3日を除く) 【対象者】要介護高齢者(世帯)、一人暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯、認知症高齢者(世帯)、身体・知的・精神障がい者(世帯) 【内容】食事・入浴の介助、清拭、排せつ介助、食事の支度、部屋の掃除、服の手入れ、衣類等の洗濯、買い物、話し相手、留守番、相談・助言、代車 【金額】※ 拜会費:1,000円 ※ 家事援助 1時間 900円 ※ 身体介護 1時間 1,000円 ※ 送迎料: 土日祝日曜日+1時間1,300円 ※ 交通費は実費 ※ 介護保険対応 なし</p>
<p>生活協同組合しほ ☎ 0120-336-021 (西津田1-10-40) 営業日: 月~金曜日 9:00~17:30 (祝祭日は除く) お弁当・おかず・おかず8品など、夕食としての供給で、お昼から午後6時を目安にお届け。配達と一緒に日用品や冷凍おかずなどの配達も。※お昼の注文、お届け。</p>	<p>まほろば ☎ 54-1838 (八雲町日吉3-46) 【対象者】要介護者、要支援者、身体障がい者 他 【目的】車では公共交通機関を利用することが困難な人の輸送 【金額】(小型の場合)送車料金:200円 初乗り運賃:最初の1.5kmまで 650円 加算運賃:乗車料金、大型車両の運賃や時刻調整運賃、夜間料金については、直接お問い合わせください。 ※介護保険対応 不可</p>	<p>(有)おおぞら 介護センター ☎ 20-2123 (大庭町1811-3) 営業時間: 24時間 【対象者】指定なし 【内容】身体介護、生活援助、受診介助 【金額】※ 車中泊/身体介護 平日・祝祭日:1時間2,000円 休前夜:2.5~5.0時間 ※その他、有料駐車場であれば実費負担 ※交通費負担あり ※介護保険対応 あり(割引等はなし)</p>

地域包括支援センター
☎ 0783 (上乃木5-18-10)
相談ごとなど、ご相談ください!
の健康を維持したい
産管理に自信がなくなった
心配、介護保険に関する手続き
とができるよう、様々な職種と連携をとり

会福祉協議会 地域福祉課
☎ 5800 (千鳥町70)
ど、どこに相談したらいいかわからない
ど、得ることについて情報収集したい
どをみてくれる人がいなくて困っている など
ことがあれば、お気軽にご相談ください。
利用できる訪問サービス、宅配サービス等のお店

※ 注) 記載した内容は、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。
こちらは、内容・料金体系を抜粋して掲載しています。サービス等詳細については、各事業所に直接お問い合わせください。

地域の社会資源把握は、地域アセスメントの一步だと言われます。最終的には、より住み良いまちに近づけていくためのアクションを起こしていくことが私たちの役目だと思います。

誰か一人の困りごとから地域を展望し、その解決のためには様々な機関や地域の人たちの力を借りなければいけません。CSW 自身がその役割を果たすためには、状況をとらえ、説明できなければだれも動いてくれないと思います。

そこで「地域の課題気づきシート」の中で情報を整理、視覚化し、地域生活課題を洗い出す取り組みを進めています。まだこれらの取り組みは十分ではなく、手探り状態ですが、まずは自分たちのスキルアップを目指しているところです。

(様式1) 地域課題気づきシート

1 気づきのきっかけ

どの場面で得たか	
誰から得たか	
得た情報 (聞いたこと、見たこと そのままと記入)	

※相談ケース

氏名		性別		生年月日		()才
住所	松江市			連絡先		
支援構成	年齢	性別	続柄	所属	職業	健康状態
同上	同上	同上	本人	—		

現在の支援状況	
その人らしい暮らしの実現のために残された課題	

現時点でのエコマップ→地域支援マップも作成する
(公的機関)

2 地域の状況

地域の設定 (〇)	包括エリア・公民館区・町内会自治会・集合住宅・その他
具体的な地域の名称	

地域データ (H 年 月時点)

人口	人	世帯数	世帯
65歳以上人口	人	担当民生委員	氏
福祉推進員	氏	氏	氏
地域のキーパーソン	氏	氏	氏
くらサポ登録者数	人	ボラセン個人登録者数	人
事例のニーズに対応する既存の社会資源			

地理的特徴 (地形、気候等)	(読み)	(読み)
見守り助け合い活動の現状	(読み)	(読み)
住民の特徴	(読み)	(読み)

3 課題抽出 (1, 2及び地域支援マップを活用する)

その人らしい暮らしの実現のために残された課題	当該地域で顕著のニーズを感える人の状況	この問題を放置した場合、5年後に予想される事態	優先順位

活用・展開例②

<h3>コミュニティワーク実践における地域アセスメントについて</h3> <p style="text-align: right;">雲南市社会福祉協議会</p>	
地域アセスメントを行ったエリア	30 地区地域自主組織

◆エリアの概要



(出典 : 雲南市作成イメージ図に一部加筆)

地域アセスメント実践のきっかけについて

地域を支援するワーカーが支援の壁 (ジレンマ) にぶつかった!

- ⇒ コミュニティワークって何なのか? 地域や関係者がそれを求めているのか?
- ⇒ CSW がクローズアップされる中で、いろいろな矛盾やとまどいを感じることも…
- ⇒ 原点に立ち戻り、社協ワーカー (地域福祉担当者、以下「ワーカー」) による自主勉強会を開催した。
- ⇒ そこで、「ソーシャルワーク実践におけるコミュニティワークの重要性」を改めて確認した。
- ⇒ その実践に不可欠な要素 = 「科学的な根拠」に基づくコミュニティワークの展開
- ⇒ そこで、その根拠となる「地域アセスメント」に取り組むこととした。

地域アセスメントの活用方法・展開について

地域アセスメントは、地域支援の専門性を問う「ものさし」。それは…

- (1) 地域支援を必要とする科学的な根拠になること
 - ⇒ 見えにくい地域支援の課題を“見える化”する
- (2) 活動内容と支援目標を設定 (計画) する根拠になること
 - ⇒ 支援目標「タスク」「プロセス」「リレーションシップ」3つのゴールを意識化

(3) 住民主体を地域とともに育む「螺旋型 PDCA」の実践根拠になること

⇒ 目指す姿があるから「振り返り」ができる＝やりがいや課題が実感できる
 本会では、次のように地域アセスメントに取り組んでいます。

(P) 地域支援の目的と支援目標の意識化

ワーカーが当該年度の地域支援の目的を共有し、目的に近づくための単年度の支援目標（3つのゴール）を設定します。そして、その達成に向けた支援計画を立て、達成度合いを判断し評価するための指標とします。

これらの実践状況を上半期経過後に振り返り、その結果を下半期に反映しています。

●平成 年度 ○○○○福祉部の支援計画

(社協コミュニティワーカー：)

項目(事業名)	4月	5月	6月		2月	3月	到達目標(ゴール)
				〰〰〰			タスク G
							プロセス G
							リレーションシップ G (事業に応じて設定)

【引用文献】

*社協コミュニティワーカーさぼと・ぶっく黒子読本 (110~111 ページ)

監修 加山弾 編著 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会とちぎ社協コミュニティワーク研究会 (2009年3月31日第1刷発行)

◆@引用部分の一部を加筆しています。

(D) 基礎データ等を活用し複眼的な視座で認識を共有

ワーカーと地域自主組織（会長、事務局長、福祉部長、福祉部副部長、地域福祉推進員等）、行政（地域づくり担当、保健師）という、3つの視座から一緒にアセスメントします。

それぞれ異なる立場、見方、価値観で地域の状況を分析し合うことで、ワーカー一人では気づけない、“地域の現状を生み出している背景”などが浮かび上がってきます。

基礎的なデータは行政提供情報や既存資料を活用し、ワーカーが予め作成します。

地域アセスメントで大切にしていることは「地域集団・組織の診断」ですが、その基盤となる社会資源や人的資源、組織の基盤、地域の活動状況、地域特性（歴史・気候条件・地理的条件・産業構造・住民性・住民意識構造等）・地域課題などの正確な把握にも努めています。



八日市地域づくりの会では、地域の生活・福祉課題を「組織で考えていくべき問題」として捉え、組織の会長等も一緒に福祉活動を推進しています。

■ 学び合い会議名

「やってみたくなる福祉活動」を学び合う会」



田井地区振興協議会では、「参加の場」としてのプラットフォームを形成し、社協だけでなく、他の社会福祉法人等とも連携し、福祉活動を推進しています。

■ 学び合い会議名

「田井地区の福祉活動を考える会」

また、地域関係者等とともにやる地域アセスメントの場の設定にも配慮しています。地域住民が主体的に取り組めるような仕掛けや、ちょっとした関心を持てる機会をつくるなど、地域の状況に合わせた支援をしています。

(C) 記録の習慣化

ワーカー行動記録（日報）【22 ページ参照】を習慣付けています。なぜなら、積上げた記録から、時間軸に着目したプロセス G の成果や、タスク G に向けた課題の変遷などを分析・確認できるからです。

また行動記録は、エクセル仕様の様式（A4 版）データで管理することで、ワーカー間の共有や人事異動の際の後任ワーカーへ組織活動の進捗状況やキーパーソンは誰か等を確実に引き継ぐ書類としても活用しています。

また、市社協主催の各種会議や地域と共に実践する「研修会」「学び合い講座」終了後は、企画の評価やアウトカム指標の達成度を客観的に把握するためのアンケートを実施し、螺旋型 PDCA を意識した実践に努めています。

(A) 自己評価と事例検討

ワーカーの自己評価は、「行動記録」と「アンケート集計」から実施します。また年度末に支援計画に基づいた振り返りも行います。ここで重要なことは「定性評価」です。これは、数値化できない「地域住民の意識や気持ちの変容」などを評価するもので、ワーカーには主観に捉われずにこれを行う技術が求められます。

事例検討は、ワーカー同士が新たな気づきを得るため、またワーカーが壁にぶつかった時など必要に応じて実施しています。

地域アセスメントによる成果や課題について

まず、成果から。3つの視座で確認し合ったことで、次の成果を感じています。

- (1) 地域の現状を複眼的に把握し、共有できた。
- (2) 組織運営面の課題と地域の生活・福祉課題を両面から把握し、共有できた。
- (3) (2)から、その課題に組織(地域)として取り組んでみようという気持ちを引き出した。

- (4) 組織（地域）とワーカー等支援者との信頼関係が深まり、連携が進んだ。
- (5) 根拠に基づく地域支援に向けた支援計画（仮説）を立てることができた。

このように、コミュニティワークについて改めてワーカー同士が学び合うことで、実践理論の体系的な理解と認識共有が深まり、地域アセスメントの協同実践を通じた螺旋型のPDCA実践を実感できるようになりました。

また、地域福祉の理念であり、社協のアイデンティティでもある「住民主体の原則」の実践イメージを共有することができ、ソーシャルワークの実践におけるコミュニティワークの重要性を改めて確認することができました。

一方の課題です。

- (1) ワーカーそれぞれが担当する6つの福祉圏域（町単位）の規模が異なること。
- (2) (1)により、6人のワーカーの業務量に格差が出ていること。
- (3) (2)により、小規模圏域では試行錯誤も含めた丁寧な実践がしやすいが、複数地区を抱える大規模圏域ではどうしても「広く浅く」になってしまうこと。
- (4) コミュニティワークの専門性を高めても、ワーカーが地域と関わっていくファシリテーション力で実践内容に差が出ていること。

(1)～(3)の課題に対しては、丁寧な実践でプロセスと成果、課題等に見える化し、地域と関係者で達成感とやりがい共有していくために「モデル地区制」を導入しました。

これにより、「広く浅く」を「選択と集中」に切り替え、見える化した成果をもとに、他地区との学び合いの場を設定し、実践地区の輪を広げていく予定としています。

(4)の課題に対しては、専門の講師を招き、ファシリテーション力を高めていく学び合いも始めています。

現在、継続的な自主勉強会は休止中です。これでは実践の深化は望めません。学び続けるチームであるために、自主勉強会の再開と各個人の自己啓発が必要です。

最後にまとめです。

地域アセスメントの協同実践を通じた事業展開では、「何のために（Why）」「何を（What）」「どうやって（How）」という順序で住民福祉活動への理解が進みつつあります。

行政をはじめとする地域づくりを推進する側が示してきたキーワード「地域課題の解決」は、そのままでは推進する側の都合であり、それを目的にすると地域は「やらされ感」から脱却できない…そこに気づいてくださる地区も出始めています。

ワーカーと地域自主組織（会長、事務局長、福祉部長、福祉部副部長、地域福祉推進員等）、行政（地域づくり担当、保健師）という、3つの視座から一緒にアセスメントすることで、「地域課題の解決」を我が事にしていく。そこから活動参加を通じた学びが深まっていく。

私たちが取り組んだ地域アセスメントのポイントは、ここではないかと思えます。

部長	センター長	主査	係長	報告者

H30年度ワーカー行動記録

年月日	圏域名	地区名	ワーカー名	相手方	事業・会議名等	経過・内容・主な事柄等	ワーカーのかかわり(働きかけ)	相手方の発言・意見	ワーカーの思い・気づき・コメント等	重点チェック項目					
										福祉教育	小地域	ボラ	住民参加	その他	
					福祉学習(福祉ってなに)	全4回の初回。福祉学習の入り口として福祉の基本的な考え方などについて質問を交えながら講義をした。	担当教諭との打ち合わせで一人ひとりの違いを認め合うこと、思いやりの心を持つ大切さを特に理解してもらい内容とすると共有していた。導入からまとめまでこれらを意識づけられるようにした。	(全体の感想) 福祉は身近にあると分かった。周りの人もしあわせになってほしいから思いやりのある行動をした。 (自分に出来ること) 周りの人と関係を深める。ちょっとしたことでも謝る。	緊張もあり淡々と話している時間が多かった。実践の話は一番反応が良かったのもう少し概論だけではなく具体的なエピソードを多く入れるなど伝わる工夫が必要だと感じた。福祉は自分にも関係がある、日常の周りの人との関わりの中に福祉があると意識するきっかけとなったのは良かった。	○					
					2/28の〇〇地区の福祉活動を考える会の打ち合わせ	2/28:考える会の協議事項の確認、3/5:地域福祉部会での協議内容や落としどころの認識共有を図る。	考える会の主催は社協だが協議内容は〇〇地区の活動。自らのこととして考えてもらえるように促す。そして推進員の思いを引き出しながら会議運営の方法を共に考えたい。	・現在取り組んでいる活動等の必要性を福祉委員にも理解してほしい。 ・グループワーク等による意見交換や振り返りは必要だと思う。 ・楽しいと思える福祉活動にしたい。	話が盛り上がり「自治会福祉委員の選出」についても語り合った。ふくしを思う人を推進するにも自治会福祉委員の理解が必要。お互いが理解しあうために意見交換を取り入れた部会にもっていくこととし、28日に詳細を結めることにした。		○				
					配食サービス新規利用申請、事前アセスメント	〇〇包括より配食S新規利用希望者がおられるとのことで相談を受け、自宅訪問をし、配食S利用申請書の提出をいただいた。アセスメントを行った。	配食Sの事業内容を説明し、利用申請書を書いていただいた。また、アセスメントも実施した。	・現在も〇〇の弁当を利用しているが、弁当の内容に飽きた。妻が入所して非常に寂しい。社協からお弁当が届くのを楽しみにしている。ボラさんとお話も楽しみ。	日自の利用者であるため面識はあったが、奥様が入所されてからの寂しさまでは認識していなかった。地域との係わりが密であるとは言い難い方なので、配食Sの利用で地域とのつながりが持て、在宅生活の維持ができることを願った。				○		
					第5回「やってみたくなる福祉活動」を学び合う会	1/26の学び合い会の振り返り。地域アセスメントについて⇒第6回推進事業の提出書類の確認	1/26の会を意見交換とアンケート集計を活用し振り返る。自主組織役員から気づき・感想・意見を聞く。 福祉活動を深めていくために、地区のことを正確に知る大切さを伝える。 推進事業の書類提出の確認をする。	・できることがみんなあることに気づいてもらえた。今回のように住民みんなに気づいてもらいたい。(会長) ・自治会長にも集まってもらえたことは、福祉委員との連携にもつながり良かった。 ・対話や意見交換は楽しい。 ・〇〇地区を正確に知っておく必要がある。	1/26の会は良い評価をもらった。福祉についても事例を入れ伝えたことがわかりやすかったようだ。意見交換の意見を今後につなげていきたい。 地域診察(アセスメント)についても理解をしてもらえた。関係者と〇〇地区を正確に共有していきたい。そこから、必ず読み取れるものがある。		○				
					福祉部研修会	今年度事業の一環として開催される	見守りについての講話	今は、無関心の人が多いので、「人」に関心をもつことが大事(福祉委員)	福祉委員の意見の中には、今後の活動等に活用できそうなこともあったので、推進員さんと話をしていきたい。		○				
					第5回〇〇地区の福祉活動を考える会	当初、2月中旬の開催予定だったが、〇〇地区振興協議会の全体の流れの中で、あえて月末開催となった。考える会で振り返り等をしっかり行い、次年度につなぐための基を作っていく。	ふくしを思う人だけではなく、今年度事業全体の振り返りを行い、次年度につなぐための基を作る。部会前の認識共有の会議として、気楽に話し合える場にしたい。	・自治会福祉委員の事業への理解が必要。 ・SP講座とサロンで認知症支援事業の充実を図りたい。 ・部会でGWを行い、思いを語り合う必要がある。	「自治会福祉委員に理解を」をキーワードに、充実した意見交換を行うことが出来た。3/5の部会でGWを行い、誰もの思いを受け止め、それを理解し、共有した上での事業展開につなげていくこととした。関係者の一体感が増した気がする。		○				

【引用文献】

- * 社協ワーカーのためのコミュニティワークスキルアップ講座-事例検討法と記録化-(82～83ページ)
- 藤井博志 著(初版 平成21年10月22日)発行 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 地域福祉推進委員会
- ◆引用部分の一部を加筆訂正しています。

活用・展開例③

他機関と連携した地域アセスメントの実施と活用について

飯南町社会福祉協議会

地域アセスメントを行ったエリア	飯南町全域
-----------------	-------

地域アセスメント実践のきっかけについて

飯南町社協では日常業務において地域に出かけて行き地域住民と関わる中で、社会資源や地域での暮らしの実情を踏まえた生活支援ニーズの把握に努めています。収集した地域情報は旧赤来町については自治振興会単位、旧頓原町では福祉会単位でフェイスシートにまとめています。

平成 29 年以降は生活支援体制整備事業の中で、第 2 層生活支援コーディネーターを当社協が受けた事をきっかけに、第 1 層生活支援コーディネーターの配置している保健福祉課及び、総務省が進める小さな拠点づくりの担当課である地域振興課と協働した地域アセスメントを実施する事で、各部局の特化した分野の課題だけでなく、社協だけでは気づかなかった福祉以外の課題や社会資源の把握が可能となってきています。

地域アセスメントの活用方法・展開について

I. 従来から飯南町社協が行っているアセスメントは別紙フェイスシートの通りです。
【24 ページ参照】毎年、年度初めに行う福祉合同会議において各小地域組織の役員及び人口構造の把握、小地域毎の取組みについて代表者より聞き取り、整理し、後日行われる各小地域の総会に極力参加し情報収集を図っています。他に、年に 1~2 回、65 歳以上の単身高齢者全戸訪問の実施や地区サロンでの日常的な語り合いの中で、個人の困りごとから地域の困りごとについて話を伺いアセスメントにつなげています。

II. 平成 30 年度には県のしまね暮らし推進課が行うヒアリング調査に、飯南町地域振興課、保健福祉課（第一層生活支援コーディネーター）と共に同行しました。赤来の 8 自治区、頓原の 14 自治会のヒアリング調査に出かけ、自治区長、自治会長から話を聞く中で、これまで社協が情報として把握できていなかった、小地域における次世代育成の為の活動、農林地管理・活用、UI ターン促進のための取り組みなどより詳細な地域の取り組みや組織について情報を得る事ができました。

III・平成 30 年度からは地域振興課が集落实態調査を進めており、社協もテーブルホストとして参加し、地域住民と一緒にグループワークを行う事で、住民の考える小地域の未来像や比較的若い世代の地域住民のニーズを収集できる良い機会となっています。

前述の（I）～（III）のアセスメントから課題や社会資源を整理し、飯南町において同じく町づくりを担当する他部局や民生児童委員協議会、老人クラブ、小地域組織（住民）に頓原地区、赤来地区の小地域の取組み一覧【25 ページ参照】や、有償生活支援サービス一覧を配布し、今後の地域づくりに活用していただいています。

H30年度 小田真木地区 フェイスシート

人(ひと)	人口	283人	年齢内訳	0~14歳 (年少人口率)	18人(6.4%)			
			15~64歳 (生産年齢人口率)	130人(45.9%)	要介護認定者	人(%)		
			65歳以上 (高齢化率)	135人(47.7%)	75歳以上	77人(27.2%)		
	世帯数	109世帯	世帯内訳	単身高齢者世帯	○世帯	ひきこもりの方等	○人(%)	
				高齢者夫婦世帯 (65歳以上)	○世帯	生活保護世帯	○世帯	
	自治振興協議会	自治振興会会長(自治区長)		事務局長		民生委員(2名)		担当地区
○○ ○○		○○ ○○		○○ ○○		(真木)		
(副自治区長)		福祉環境部長		○○ ○○		(小田)		
○○ ○○		○○ ○○						
						自治振興役員任期		
【福祉環境部】 ○ ○○○、○○○○、 ⇒そば配り、サロン助成、清掃活動			【文化スポーツ部】 ○○○○、○○○○ ⇒ 夏祭り、とんど等		【総務部】 ○ ○○○、○○○○		自治区長は2年任期	
上記以外の地域のキーパーソン			地域福祉活動組織(各自治会から1名ずつ)農地に関すること、田んぼの生き物調査、溝掃除など		【地理的状況】			
組織	自治振興協議会内の小地域		小地域名:自治会長(世帯数) 奥真木:○○○○(33) 奥小田:○○○○(16) □真木1:○○○○(16) 中小田:○○○○(16) □真木2:○○○○(7) 小田:○○○○(25)					
	民間企業「真栄グループ」		その他の住民組織	『夢来咲クラブ(和田地区)』・町内のイベントへ調理品を販売、夏祭りへバイキング食事の提供、サロンボランティア		消防団、婦人会等	上來島とひとつに第三分団	
	小田真木老人クラブ(会長)		ボランティア(自助)グループ名	・サロン活動(毎月1回) ・花いっぱい活動(中小田、奥真木、奥小田)の花壇整備・・・各地区の高齢者中心		営農法人等	・真木:農事組合 真栄 ・小田:法人化に向けて動いている ・奥小田では3分の1の戸数で実施。	
社会資源	【主な相談機関・福祉サービス事業者】 ・小規模多機能施設『ブナの木』		【公民館、集会所】小田地区4 真木地区2			【その他社会資源】 ・ふるさと回想館 ・和田八幡宮 ・○○建築		
	【生活関連機関】		【教育施設】					
自治振興協議会の活動状況	常会等(定例会)、開催頻度		毎月26~28日の間 小田→高屋と和田に分かれて、常会開催 田→毎月28日 中小田→毎月 日 奥真木→必要な時 □真木→					
	その他にある定例会開催頻度		自治振興協議会の連絡会・・・毎月23日					
	小地域福祉活動計画策定状況		しまね流助成事業 H24年申請					
	総務部: ①自治区長会定例会開催(23日) ②農地・水・環境保全向上対策事業への取り組み							
	福祉環境部: ①校庭環境整備(旧小田小学校校庭草取り) 7月 ②小田・真木サロンに助成(3万円) ③旧正月のそば配布							
	文化・スポーツ部: ①小田夏祭り 8月 ②しめ縄作り 12月 ③とんど祭り 1月							
その他: 中山間小田小区、アグリドリーム小田(H31.4~法人化)								
福祉課題	・元気な方も多く、自治会単位で動いている。自治振興としての活動は少ない。							
	・東北震災以後、災害時の避難場所についての話し合いをした。 回想館・・・避難場所として整備 単身の方の声掛け、誘導の担当を決める(町からの情報に添ってある)							
課題・その他の事項	・町コミュニティ活動助成 戸数×@3,000円							
	・自治会事務費 戸数×@2,000円							
	・ふるさと回想館管理費							
	・その他夏祭りの参加費、飲み物代							
	・足りないところは、基金で対応。							

●飯南町地区別状況表（一部抜粋）

○赤来地区別状況表（まとめ）

	自治会	支え合い活動等			地区交流会		自治振興協議会活動	その他の活動
		サロン	常会	その他	老人クラブ			
上赤名自治振興協議会	北野上（北野上会館）	北野下すみれ会、 （北野下研修会館） （月1回）	27日/月	葬儀、除雪、 ◆上赤名	老人クラブ	運動会等合（雨天も）、新年会、	支え合い活動 ・旧正月そばの配布 交流会 ・上赤名収穫祭（めんがみまつり） チームめんがみ めんがみまつりで手作りこんにやく他販売 半夏まつり、銀山ウォーク援助	【北野上、下の有志】2年に1回旅行へ ※2グループある様子 【友好会】（会員10軒）・・・向谷 ・炭焼き（販売する） ・泥落とし（自治会に声はかける） ・そばやさつまいもの栽培 【チームめんがみ】 めんがみまつりで手作りこんにやく他販売 半夏まつり、銀山ウォーク援助
	北野下（北野下研修会館）		27日/月	葬儀	ことぶき 老人クラブ	運動会等合（雨天も）、新年会、 運動会等合（雨天も）、新年会（とんど）、 田植え休み（5月末）		
	中区上（中区上生活改善センター）	上赤名サロン （上赤名会館：月1回）	27日/月	葬儀、防災時要援護者	老人クラブ	運動会等合（雨天も）、新年会、 田植え休み（5月末）		
	中区下（上赤名会館）		27日/月	葬儀、除雪	月根尾 クラブ	運動会等合（雨天も）、新年会、		
	瀬戸1（瀬戸公民館）		27日/月	葬儀、◆瀬戸		運動会等合新年会、忘年会（男のみ）		
	瀬戸2（辰屋谷集会所）		27日/月	葬儀、除雪、見守り確認		親睦会、忘年会、新入生歓迎会、		
	向谷口（向谷会館）	向谷サロン（年4～5回）	25日/月	葬儀	瀬戸山	新年会（とんど）、道路草刈後夏祭り、運動会等合、		
赤名自治振興協議会	上市上（上市上集会所）	上市上なかよしサロン	1回/年	葬儀、◆向谷	老人クラブ	運動会等合、グラウンドゴルフ（サロンで実施）	支え合い活動 ・旧正月そばの配布 ・子供見守り活動、あいさつ運動 啓発、研修会 ・年1回10月頃（保健福祉等の内容） 地域交流会（各1回/年） ・グラウンドゴルフ ・やまめつかみ取り（旧ゆきんこ祭り） 森林セラピー 環境活動 ・ふれあい公園管理（委託管理） 防災活動 防災教室（消防団の協力で、1日に上、中、下を回り消火栓つく練習	ふれあいクラブ（赤名地区有志6名） ・毎月1回「酒造り交流館」にて趣味のひろば（苔玉、布の割きあみ、こんにやく作り等）を開催。
	上市下（上市下集会所）			◆上市下		グラウンドゴルフ（水、休日）		
	中市上（中市上集会所）	中市サロン		葬儀		運動会等合、グラウンドゴルフ（木）、軽体操（水）		
	中市下（中市下集会所）	（中市上・下集会所、酒造り交流館）		葬儀、◆中市	登録なし で食事会	運動会等合、福祉委員主催催し、花見、		
	下市上 （下市上集会所）	1班 2班	なし 1回/年	JA、◆下赤名2				
	下市下 （下市集会所）	1班 2班 3班 4班		◆下市	さくら 老人クラブ	運動会等合（衣掛、朝美野等）		
	衣掛団地（上市上集会所）		27日/月	子どもの日に1,000円		運動会等合（上市上）		

・地域のひきこもり・不登校の当事者・保護者のニーズから居場所づくりにつながったケース

平成27年に開設したひきこもり・不登校の当事者・保護者の居場所・相談場所『ぷらっと』は地域アセスメントをきっかけに始まった支援の一つです。当時、社協職員の暮らす地域に、20代で自宅にひきこもっている方が若干名いる事を把握していました。義務教育の間は、学校や保健師からの相談支援はあったようですが、義務教育終了後はその関わりも徐々に減ってきている様子でした。他の地域で同様のニーズがどのくらいあるのか知る為、社協職員が他の事業のPRも兼ねて飯南町全域について全戸訪問をした結果、同じように家族がひきこもりで悩んでいる家庭があることを把握、支援の必要性を確認しました。支援する側として、以前より自身の子供が不登校を経験し、その際に試行錯誤しながら支援をされていた当事者のお母さんの存在も知っており、居場所・相談場所『ぷらっと』の立ち上げにつなげる事ができ、以降はこの『ぷらっと』への参加を通じ、社会とのつながりを取り戻し就労につながったケースもあります。

・地域住民からのニーズはあっても集う場がなかった地区に集う場を作り介護予防につなげたケース

この地区は昔から助け合いが出来ていた地区で、自治会でとんど祭り、盆のカラオケ大会、小宮の祭り等長年継続していました。

高齢女性の集まりの場としては、十数年前に旧赤来町の保健師が広めた体操の会がありましたが、会場やお茶の準備などの負担が大きくなり自然消滅してしまいました。

飯南町社協は、年に1~2回65歳以上の単身高齢者の全戸訪問、単身高齢者の集いを開催しています。その中で、この地域に暮らす住民から、「以前の様に体操等の集まりがあればいい」という声を聞き、一方で「天気の良い日は畑仕事をしたい」「以前の体操の会のやり方では負担が大きい」との声も聞きました。そこでこの地域の構造や資源をフェイスシートを参考に再確認、検討する事で、社協が集いの場としてすすめている“ふれあいいいきサロン”よりも役場保健福祉課がすすめる“長生き体操”の方がこの地区住民のニーズに合っていると判断し、役場保健福祉課の包括支援センターと連携しながら、地域の集いの場として長生き体操に取り組む事にしました。この地域のニーズに長生き体操は合致し、また保健福祉課と社協の連携で、地域の集いの場が一つ増え継続実施されています。

・県のヒアリング調査から、自主防災に意欲的な地域をつなぎ、自主防災組織立ち上げに向け動き出した事例

昨今、災害が多発し、どの地域も自主防災、災害に強い地域づくりについて関心が強くなっています。県のヒアリングにおいて、ある2地区が自主防災組織立ち上げに特に意欲的であるという情報を得る事ができ、そこで社協がつなぎ役となり、同地区の集落支援員を巻き込んで2地区合同研修会の開催を提案しました。結果、地域振興課のまちづくり事業ともコラボした形で合同研修会が行われ、今後はそれぞれの地区において自主防災組織設立に向け動き出される予定となっています。



地域アセスメントによる成果や課題について

飯南町は小さな町で、昔から近所同士のつながりがある町だからこそ、社協と地域は身近な存在であり、住民の声が届きやすく関係機関との連携が持ちやすいと感じます。

その利点を生かし、福祉関係者だけではなく地域振興の担当課とともにアセスメントや支援を行う体制ができつつあります。協働してアセスメントを行う事でこれまで情報量としては少なかった農業や観光、定住対策などの情報を得る事もでき、また支援についてもお互いの役割を共有しながら効率的で効果的な支援も可能となってきています。

今後、高齢者の社会参加や新たな担い手確保など支援の輪を広げていけるという可能性もあり、引き続き行政の各部局や教育委員会、商工会等ともつながりを深めながら、地域課題解決に結びつけていきたいと考えています。

活用・展開例④

地域が主役でオンリーワンの「縁」づくり

隠岐の島町社会福祉協議会

地域アセスメントを行ったエリア

中町地区（西郷中町町内会連合会）

地域アセスメント実践のきっかけについて

【地域の状況】

西郷中町町内会連合会を構成する中町地区は、隠岐・島後の南部に位置し、海路の拠点である西郷湾を西端に東西 800m、南北 100m前後の細長い集落群です。

「東西を結ぶ回廊」の役割を果たしてきたことから、近世以来、商業や海運が盛んな土地柄で、まさに「島後の中心市街地」でした。



また、明治以来、隠岐汽船発着岸壁やバスの発着起点も設けられ、まさに「隠岐・島後」の表玄関として、海陸交通の要衝の地となりました。



昭和30年代の「目貫通り」



現在の「目貫通り」

人口は、昭和 30 年代には 1,000 人を超えていました。しかし、近年は毎年 10 名以上自然減・社会減による減少が常態化しており、現在は、実質 150 戸・300 人未満、高齢化率は 48% を超えた状況です。これは町の中心部とは思えないほど、町の平均をいずれも大きく超えています。

また、かつて隠岐・島後のメインストリートであった「目貫通り」は、30 店舗を越えた最盛期から想像もできないほど閉店・閉鎖が相次ぎ、今では 5 店舗へと減少し、空き家の倒壊危険家屋が立ち並ぶ通りと化しています。

これに呼応するかのよう、目貫通りを往来する人はほとんど見かけることはなくなり、閑散とした雰囲気醸し出していました。

社協としても、こうした状況を見聞きしていながらも、どこの誰に、どのようにアプローチしていくか思いあぐねる日々が、ただただ過ぎていくのみでした。つまり、雰囲気・感覚的に地域づくり実践が必要であることは想像されたが、何もせず、何もできずにいたということです。

また、行政や公民館等、どの機関も、地域状況をはじめ地域的活動の実態を把握していない状況でした。

【地域アセスメント実践の契機】

隠岐・島後の共通する特徴には、次のことがあります。

- 住民の意思決定・合意形成を図るには、住民自治組織が中心となっている。
- 住民自治組織と各集落の神社の一体的な運営形態が、住民の求心力の基調となっている。

以上を踏まえ、中町地区でも同様であると仮定し、西郷中町町内会連合会へのアプローチにあたっては、各自治会区長へ郵送で送っていた「助成制度」や「研修会」等の案内を、拝眉の上で説明・手交する手段をとりました。

当初は事務的な受け渡しでしたが、4,5回目でようやく内容説明をさせてもらえる雰囲気に持ち込むことができ、改めて中町地区の現状をお聴かせいただく機会を設けていただくことになりました。

地域アセスメントの活用方法・展開について

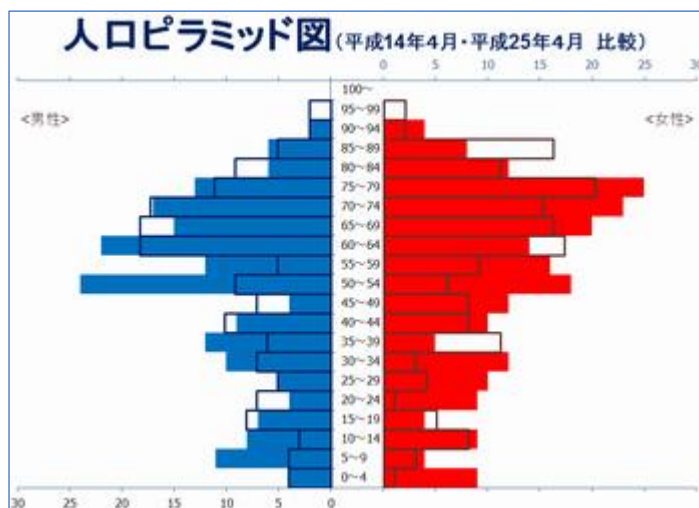
【アセスメントの事前準備】

中町地区の現状をお聴かせいただく機会を前に、社協として、地域情報を把握していくための「地域アセスメントシートβ版」を作成しました。

そして、西郷中町町内会連合会会長（以下「連合会長」とう。）了承のもと、役場からデータを取り寄せ、コーホート変化率法による「年齢層別人口ピラミッド(10年前と現在)」を作成しました。さらに、「しまねの郷づくり応援サイト」を参考とした予測値も割り出し、人口動態から窺える地域的な課題、今後必要な地域的思考を整理しました。

【アセスメントの実践】

アセスメント実践過程は次のとおりで、これを2,3回繰り返し行いました。



- ① 連合会長からのヒアリングと社協作成資料の提示、方策検討
 ⇒「地域アセスメントシートβ版」をもとにした地域状況・情報のヒアリング。
 ⇒社協の仮説と実態のすり合わせ。
- ② 西郷中町町内会連合会役員ヒアリングと社協作成資料の提示、合意形成
 ⇒連合会長とともに整理した「地域アセスメントシートβ版」と人口ピラミッドをもとにした地域状況・情報のさらなるヒアリング
 ⇒社協の仮説と実態のすり合わせ。
 ⇒取り組みの必要性の合意形成。

こうした協議の中では、必ず積極層と消極層、無風層に分かれるものですが、幸いにも、西郷中町町内会連合会は役員全員が潜在的に、衰退し、寂しい雰囲気になっていく地域を内心では嘆いていた状況が明らかになりました。

そして、役員一人ひとりが「どうにかできないか。何かはするべきだが何をすれば良いか分からない。」と思うばかりで、誰にも相談できずにいたことも明らかになりました。

以上の経過を経て、実際に「具体的に取り組みそうなこと」を協議していく段階に移行するわけですが、こうした中における社協の役割や視点は、主に次のとおりといえます。

其の一：丁寧な関係づくり

其の二：観察・把握

⇒福祉のことに限らず、地域の様々な事柄まで丁寧に把握する。

其の三：見極め・提案

⇒様々な切り口・角度から地域を見極め、その上でここぞのタイミングで重要なポイントを提案する。

※次のステップ（活動）への移行にあたって上記の繰り返し。

しかし、今後、住民との合意形成や活動理念を明確にしていく上でのキーワードがまとまらず、外部講師を招聘し、客観的な視点を交えていくことにしました。

そこでご教授いただいたのが、島根大学教育学部・作野広和教授（当時、准教授）でした。



▲目指すべき取り組み内容の議論



▲住みよい地域づくり特別公開講演（40数名が参加）

アセスメント実践で行き詰まった際、外部講師を招聘して客観的な視点・意見をいただくことは、今まで当たり前と思っていたことが実は魅力的なことであったり、地域的な強みや弱点をポイントで捉えるきっかけになりました。



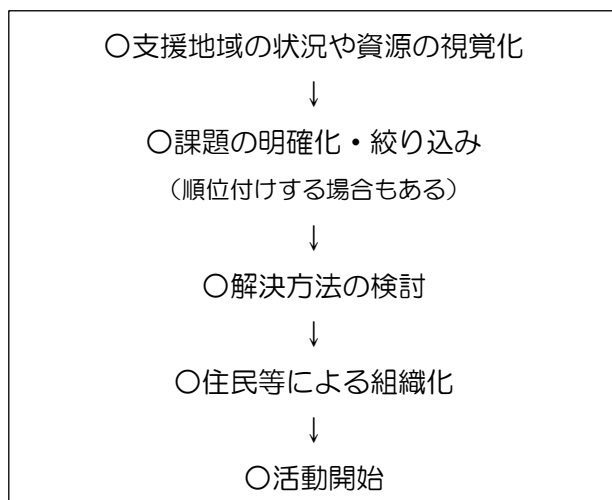
▲連合会役員会での協議の様子

以上を踏まえ、改めて社協も交えて西郷中町町内会連合会役員会の場を設け、取り組めそうなことから、具体的な展開方法を協議し次の順に事業を実践しています。

- ①中町お出かけベンチ設置事業
- ②中町・東町「古写真展」の開催・書籍発行
- ③高齢者見守り・声かけ訪問活動「地域一円縁づくり事業」の実施
自主防災組織の組織化と年3回の定期的な訓練
- ④高齢者サロンの開設
- ⑤自治会運営型生活支援サービス「高齢者等生活サポート事業」の実施

地域アセスメントによる成果や課題について

【隠岐の島町社協が大事にしている地域アセスメントの基本的な考え方】



地域アセスメントは、診断すること自体が目的ではなく、地域福祉を推進する上での一連の流れの中に位置づけられるものです。つまり、隠岐の島町社会福祉協議会では、コミュニティワークを展開する上で、左の『展開プロセス』を最も重視するべきだという認識を共有しています。

「課題の明確化～解決方法の検討」段階で、いかに多くの住民を巻き込み普遍化していけるか！は、特に重要といえます。

この過程が住民自身の自治力形成や問題解決能力の向上につながります。

【成果・課題】

○地域アセスメントを丁寧に行い、且つ、地域の強みや弱点、必要なこと、住民自治組織としての活動理念を広く普遍化したことで、現在の立ち位置で、次に何が必要か.. というアンテナを、常に住民が張り巡らせながら生活していくことにつながっています。

○当初、道ばたですれ違ってもあいさつすら交わすことのない住民特性が、現在では、



▲アセスメント段階での地域踏査

あいさつは勿論、その先の思考（困っている人を見たら助けるのが普通。不安なことは誰かに相談する。）が定着してきています。

また、地域アセスメントを起点として一連の事業・活動を展開してきたことから、それぞれの事業・活動が相互に補完しあっています。つまり、訪問活動やサロンでのニーズキャッチから生活福祉課題の把握、生活支援サービスの展開からサロン

への誘い出しなど、好循環となっています。

- 一方で、地域アセスメントによる一連の流れを形づくっていくためには、その先にある活動実践等に要する財源確保の問題も孕んでいます。しかし、西郷中町町内会連合会の場合は、町・県共同募金助成や県社協補助・助成事業（しまね流自治会区福祉活動・訪問員配置モデル・新たな支えあいファンド）など、複数年で計画的に活用する機会に恵まれ、段階的に活動実践に結びつけることができました。これが他の時期等であった場合、これまでの過程のようにスムーズにはいかなかったと思われる。
- また、地域アセスメント段階での行政や公民館等関係機関の参画にあたって幾度か要請を行ってきましたが、「生活支援体制整備事業」のような理念が行政サイドでも乏しかった時期でもあり、具体的な支援を得ることはできませんでした。しかし現在では、地域で解決困難な生活課題の相談先としてのパイプが確立されています。

隠岐の島町 地域福祉推進基礎組織 強化方策 自治会区カルテ

自治会区名 管理№

1. 自治会区・地域の基礎情報 作成・更新日: _____

基本情報	役員構成		作成・更新日:	
	役職名	人数	役職名	人数
設立年月			自治会区規約の有無	有・無
組織形態				
志願者組織				
他の組織への				
地理特性				
歴史・風土				
住民気質				
産業構造				

2. 地区内活動点検

主催団体	活動内容(対象者・内容)	協力団体

3. 課題・考察

4. 人口動態

年齢(歳)	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
0-4					
5-9					
10-14					
15-19					
20-24					
25-29					
30-34					
35-39					
40-44					
45-49					
50-54					
55-59					
60-64					
65-69					
70-74					
75-79					
80-84					
85-89					
90-94					
95-99					
合計					
世帯数					
年少人口					
生産年齢					
高齢者					
高齢化率					
障がい					
身体					
知的					
精神					

隠岐の島町 地域福祉推進基礎組織 強化方策 自治会区カルテ

自治会区名 管理№

5. 暮らしの条件(口内に、数を記載) 作成・更新日: _____

買い物	<input type="checkbox"/> 大型店	<input type="checkbox"/> スーパー	<input type="checkbox"/> 個人商店	<input type="checkbox"/> 他店舗
医療	<input type="checkbox"/> 病院	<input type="checkbox"/> 診療所	<input type="checkbox"/> 歯科	
福祉	<input type="checkbox"/> 介護施設	<input type="checkbox"/> 障害施設		
金融	<input type="checkbox"/> 郵便局	<input type="checkbox"/> 農協	<input type="checkbox"/> 島銀	<input type="checkbox"/> 合銀
事業所	<input type="checkbox"/> 農林業	<input type="checkbox"/> 建設	<input type="checkbox"/> 卸・小売	<input type="checkbox"/> 学習
	その他()			

6. 支援の経過

年月日	支援経過記録 (ISCのカかわりも含めて記載)	協働先	投入財源
年 月 日			
年 月 日			
年 月 日			
年 月 日			
年 月 日			
年 月 日			
年 月 日			

7. 小地域福祉活動開発プラン 作成・更新日: _____

活用・展開例⑤ 「個別支援ケース検討会での活用」

市町村社協では、個別支援のケース検討会が実施されています。

個別支援ケースの検討を行う中で、今回のような地域アセスメントシートを用いることで、地域が持っている力を改めて確認することができます。個別支援担当者では気づかない、地域住民や地域の事業者が行っている買い物支援や住民同士の助け合いの情報などから新たな支援の方向性につながることもあります。

さらに、地域での担い手が不足している住民参加型在宅福祉サービス団体へ引きこもりの方が参画し担い手になる、あるいは、農業・漁業への就業体験などへつながるなど、新たな支援の可能性・方向性が見いだせることがあります。

特に島根県では、農業・漁業・伝統文化といった福祉以外の分野では、多くの活動・資源があります。そうした項目もアセスメントし、共有していくことは重要ではないでしょうか

さらに、地域支援担当者にとっても、個別の課題について認識し、そこから地域全体の課題として捉え、活動展開することも考えられます。こうしたコミュニティソーシャルワークの展開を見据えて地域アセスメントを活用することも大切ではないでしょうか。

07 地域アセスメントシートの改善・注意点について

これから各市町村社協で地域アセスメントをしていくにあたり、いくつかの改善・注意点があります。これらを検討しながら取り組みを進めて下さい。

①人事異動に伴う引継ぎについて

当然ですが、社協では人事異動があります。担当者だけが地域アセスメントの情報知っていることではなく、アセスメントシートに記載し、引き継ぐことは重要ではないでしょうか。また、新人職員や新しく担当者が地域アセスメントシートに取り組む際には、地域アセスメントシートの記載方法から考え方を理解し、地域アセスメントを行っていく必要があります。そのため、勉強会・準備会・担当者会議などを重ねながら実践していくことが重要です。

②記入方法について

アセスメントした地域の情報をシートに記入をするのに1日を費やす人、簡潔に書く人・長めに書く人と様々なケースが考えられます。記載方法の共有・書き方について定期的に勉強会を繰り返すことやスーパーバイズを行っていくことなども重要です。

③共有方法について

地域アセスメントした情報をどのように共有するかについて、検討しておく必要があります。ある社協ではサーバーに情報を保存し閲覧できるように仕組みを作った所もあります。紙ベースで地区別ファイルとして保存する方法もあります。

地域住民や行政等関係機関・団体との共有方法についても、どのように共有していくか、そこからどう展開させていくかなどについても検討しておくことが重要です。

④更新について

基本的な情報について、年1回更新を行う場合や、地域住民から知りえた情報部分のみ随時更新する場合など、項目によって更新頻度を分けている社協もあります。職員体制を鑑み、更新頻度を検討しておく必要があります。また、アセスメント項目についても随時変更をかけるなど、項目内容自体も検討しながら更新を行いましょう。

08 おわりに

本検討会は、「地域アセスメント」の考え方と実践での活用方法という2点を整理することを目的に、議論を重ねてきました。本書は、それをとりまとめたものです。

「地域診断」と呼ぶコミュニティワークの一過程も、「地域アセスメント」に（ほぼ）含まれると考えていただいて結構です。「地域診断」は、社会福祉協議会基本要項が発表された1960年代頃から使用されてきたのでしょうか。現在では、コミュニティソーシャルワーク実践が求められる中、「地域アセスメント」と呼称されることが増えてきたように思います。ですが、ここではこれ以上の厳密な用語定義の議論は避けます。

検討会では、地域アセスメントを丁寧に行っておられる市町の社協ワーカーに集まっておられました。主に、①日頃のアセスメントの方法、②把握した情報の活用方法、について報告いただきました。その上で、市町村社協のソーシャルワーカーが地域アセスメントを行う際に、参考となる方法論と実践に活用可能な資料とを整理しました。

3回の検討会を通じて、皆が重要であると一致して認識したことは、次の2つであったように思われます。

まずは、地域にある社会資源を把握することです。住民や専門職が利活用できる、施設、サービス、居場所、各種組織などです。現在、地域に存在する資源を把握するという、基本的な活動です。これはさほど難しいことではありません。ただ、これを行うのは、不足している資源を考えるためでもあります。地域福祉に携わる専門職であれば、必要に応じて「資源開発」「社会資源の創設」に取り組むことが重要になります。

次には、地域構造の把握です。一つには、住民が抱えるニーズと課題を把握することです。高齢者、児童、障がい者といった福祉サービスを必要とする人も含めた地域住民が、何に困難を感じているのか。既存資料や業務記録・経験から整理します。もう一つは、それら個人・家族の課題が、地域構造とどう関連しているのかを把握することです。具体的には、過疎化、人口減少、地域組織の強弱、住民意識の変化、などです。ワーカーはこれらの項目について整理を行います。本書では、そのためのモデルシートも掲載してあります。

シートを作成すること自体が主目的ではありません。重要なのは、住民が地域の課題解決のための活動に、主体的に参加することです。専門職である社協職員の役割は、それを援助することにあります。本書が、住民と専門職の皆さんの活動の参考になれば幸いです。

モデル地域アセスメントシート策定検討会 座長 加川 充浩

【モデル地域アセスメントシート策定検討会 策定経過】

第1回 検討会 平成30年12月6日（木）9:00～12:00

- (1) 座長選出
 - (2) 検討会の設置目的とスケジュールについて
 - (3) モデル地域アセスメントシートの項目について
- ※市町村社協へ地域アセスメントシート策定状況調査を実施

第2回 検討会 平成31年1月29日（火）13:30～16:30

- (1) モデル地域アセスメントシート（案）について
- ※3回目開催までに、各委員により事例提供

第3回 検討会 平成31年3月28日（木）13:30～16:30

- (1) モデル地域アセスメントシート（案）について

【モデル地域アセスメントシート策定検討会委員名簿】

職名は平成31年3月31日現在

所属・役職	氏名
島根大学人間科学部福祉社会コース 准教授	加 川 充 浩
松江市社会福祉協議会地域福祉課 主事	三 上 貴 大
雲南市社会福祉協議会地域福祉部 主幹	藤 原 健 次
飯南町社会福祉協議会地域福祉課 主任	田 中 綾 野
隠岐の島町社会福祉協議会総務福祉課生活支援係 係長	松 浦 誠 二